

はじめに

地域がん登録全国協議会総会研究会も第5回を迎えました。本協議会では、第4回総会研究会から Proceedings を発刊するなど発展期に入って参りました。これも、本協議会理事長藤本伊三郎先生のご指導によるところが大であり、事務局、厚生省保健医療局、老人保健福祉局はじめ関係各位のご努力とご支援の賜であります。

第5回総会研究会は、平成8年9月20日長崎県医師会館で開催され、その前日の9月19日には実務者研修会と自由集会在長崎大学医学部ポンペ会館で開催されました。全国からの参加者は約170名で盛会のうちに終了致しました。会員の本総会研究会に寄せる期待の大きさを感じました。参加会員は登録に関して経験豊かな方から、登録設立を計画している県の方まで幅広い層からなっています。

第5回総会研究会では、冒頭に厚生省疾病対策課長遠藤明先生が国の政策として地域がん登録を支援していることを強調して挨拶され、老人保健課課長補佐岡本浩二先生は、国の老人保健事業の中での地域がん登録の位置づけと役割について講演されました。この講演によって地域がん登録が国のがん対策に非常に役立っていることがお分かり頂けたことと思います。地域がん登録全国協議会事務局花井彩先生は国際がん登録協議会の前副会長として、世界のがん登録の現状とシステムについて紹介され、世界のがん登録の中での日本のがん登録の位置づけと今後のあり方についても述べられました。教育講演では愛知がんセンター田島和雄先生が、地域がん登録資料を疫学研究に利用する場合の例として、長崎県に多発している成人T細胞白血病・リンパ腫の疫学について紹介されました。会長講演では、長崎に設立されている腫瘍組織登録の方法、利点、欠点及び資料の解析例を紹介しました。また、パネル・ディスカッションでは、九州・沖縄のがん登録の現状と問題点、今後の方針などが紹介され活発な討議が行われました。そのほかに関連研究班の報告があり、地域がん登録との関連と協調の必要性が述べられました。

以上、第5回総会研究会のプログラムの概要について述べましたが、地域がん登録がいかに関係が役立つかがお分かり頂けたことと思います。ただし、常に心にとどめておくべきことは、これらの有用性は精度の高い地域がん登録によって初めてもたらされるものであるという事実です。地域がん登録を行うことは、常に登録精度と闘うことでもあります。本書が各地で行われている地域がん登録の精度向上にも役立つことを願っております。

本書の作成に膨大な時間を費やし、校正等にもご協力をいただいた演者の先生方、ならびに協議会事務局の方々に心より感謝致しますとともに、本書がわが国の地域がん登録事業の発展に役に立てれば幸いと存じます。

(池田高良、早田みどり)